

# 舞鶴をIT企業の 集まるまちに

昨年6月に舞鶴支社を開設されたIT企業のインフォニック株式会社は、京都に本社を構え東京・大阪・福島・舞鶴・マンマーを拠点にソフトウェア開発やIT基盤構築業務を行う会社です。

新型コロナで、急速に働き方の多様化が進み、特にIT企業はネット環境が整えば、働く場所は必ずしも都市部である必要はなくなっています。その中でなぜ、舞鶴に支社を置くことになったのか、そして今後の展開などを社長の菊地さんに伺いました。

## インフォニック株式会社 舞鶴市長 菊地 宏さん × 多々見 良三

インフォニック株式会社 代表取締役社長。  
1964年、宮城県石巻市生まれ。同志社大学法学部卒業後、現みずほ銀行に入行。大阪支店(外国為替部)を皮切りに、京都支店、麴町支店等で15年間勤務。退社後、2005年インフォニック株式会社を創立、代表取締役に就任。



### 銀行マンからIT企業へ

**市長** ITの時代になり、20、30年後にはなくなる仕事は山ほどあると思います。そういう時代に子ども達が臨機応変に対応できるように用意をしておかないといけないと思っています。もう、年功序列終身雇用なんてそんな甘い時代じゃないと言われています。そういう中で、大学卒業後、銀行に勤めておられたのに、なぜ全くの異業種に転身されたのでしょうか。

**菊地** 入社した当時は、銀行が一番華やかなりし時代で、世界の時価総額ランキング上位5社のうち4社が日本の銀行でした。あまり考えずに時代の流れに沿って「銀行に入れば将来安定かな」と思っていたことも考えながら入ったんです。いろんな業種の営業マンがいますが、融資先の社長に直接会って、これまでの経緯とかを聞ける仕事は銀行以外ないし、本当に楽しい仕事だと思ってやってきたんですけど、30代後半になって、敷かれたレールに乗ってさえいけば安泰の老後の生活を送るのかと思った瞬間に、もう抜け出したくなって仕方なくなりました。これはもう諦めるしかないなど。もう一回何か自分でチャレンジしないと、と思って辞めました。  
**市長** ITの仕事を選ばれたのはどういう理由からですか？

**菊地** 15、16年前ですけど、IT、コンピュータの将来性がものすごく大きいことを感じました。例えば人・物を運ぶ手段が馬車から自動車・トラックに変わるような大きな力を持っているなど。もう一回やり直すにはこれかなと思って業界に入った感じですね。

**市長** 私も、前職は医師で、2001年に市長に就任したので、全くの異業種に転身しています。この職に就いた時に、職員に市長は雲の上の人と言われたので、係長以下全ての職員と話をしました。1チーム10人で1年半掛けて6つのテーマの中から、サイコロを振ってその時話すテーマを決めたんですが、その一つに「失敗で学ぶか、成功で学ぶか」。これには正解はないですが、それぞれがどう判断するかを聞いて、最後に私の思いを言いました。失敗学という学問もあるが、失敗ばかり勉強すると失敗しないようにと考えが小ぶりになる。成功者というのは全て成功してきたわけじゃなくて失敗を乗り越えている。この時こんな失敗をした、この失敗はこういう工夫で乗り越えたという乗り越える様を勉強することでスケールが大きくなるという理由で、私は成功者に学ぶ。そんな話したことがあるんです。  
**菊地** なるほど、いい話ですね。

### お客さま目線を大切に

**市長** 菊地さんの今の商売を軌道に乗せるまでの苦労とそれを乗り越える秘訣を教えてください。

**菊地** 何か一つあるとすれば、コンピュータ業界出身ではない、すごくまれなIT企業の社長だと思っています。本当にコンピュータが好きでエンジニア出身の人たちは、やっぱり自分がやりたくなくなっちゃうんです。だから、できない人のことをなんでできないんだ、ってなるし全部自分がやった方が早いから自分でやるとなかなかその人の個性が大きくなる

ないってこともあります。逆に僕はITのことを知らないんで、僕ができないところをやってくれるメンバーを集めてくるしかなかったんですね。「これは君に任せろ」「これは君に任せろ」これは君に任せろ」といって、最後の判断以外は信用して人に任せろことで人を育ててきたっていうところはあってもいいですね。

**市長** 私も市の職員に「行政は素人だから深くは分らないけど、この方がいいじゃないか」とよく言いました。行政職員の常識とは違うかもしれないですけどね。  
**菊地** そういう所は市長と僕は似ている部分がありますね。やりたい人はやった

